

令和6年11月

# 魚津市定例記者会見



日時:令和6年10月31日(木) 午後1時30分～午後2時15分

場所:市役所 第一会議室

報道出席者:北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞、NHK、ラジオミュー

市当局出席者:市長、財政課長、情報広報課長

## 【市長からの発表事項】

### 1. 令和7年度魚津市行政経営方針 (企画政策課)

(1枚目について説明。)

昨年までなかった部分について説明すると、県内で唯一の水族館をはじめ、歴史的な価値のある米倉、松倉城跡など、本市独自の魅力のある地域資源を生かしたまちづくりを進めていく必要があり、オンリーワンの資源を生かしたまちづくりをしっかりと進めていこうといったことを記載しています。

現在、第5次の魚津市総合計画を進めているところであり、令和8年度から12年度までの5年間は、この第5次魚津市基本計画の後期計画になります。新しい後期計画で、この状況を踏まえた方針をしっかりと出していくということを、今考えているところであります。

人口減少対策を最重要課題としながらも、誰もが多様な価値観を尊重して互いに支え合える、活躍できるそういった取り組みを、市民の皆さんや、企業団体、他の自治体あるいは他の民間団体、そういったところと一層連携して取り組むことによりまして、将来にわたって輝く故郷の実現を目指していきたいと考えております。

(2ページ以降の説明)

### 2. 魚津市中期財政計画 (財政課)

市税の状況については、28年度をピークに減少し、3年から回復となっておりますが、今後の税収見込みは少し厳しいものと見込んでいます。国県支出金につきましては、コロナ・物価高騰対策の関係で、令和2年度に伸びて、そのあとも高い水準が続いています。

義務的経費につきましても、交際費と人件費の方はそれほど大きな変更はありませんが、扶助費については、同様に国のこの対策を受けた形で、高い水準が続いています。そして投資的経費の推移につきましても、統合小学校のハード整備が続いた後、抑制をしてきているんですが、ここ2年間ほどを見ていただくと増加傾向にあります。コミュニティセンターの建替、新しい温水プールの整備事業費が相当大きいため、こういった推移となっています。

基金の状況について、当基金の積立額としては過去最大になっていますけれども、今後の庁舎整備に向け、計画的に進んできているということがあるのと、近年のふるさと納税が好調に推移しているということもあります。

財政収支見通しは、なかなか厳しい状況が見えています。

義務的経費の方は、小学校の建設にかかる償還が8年ぐらいで減少していくので、公債費が一時的に下がっていきませんが、扶助費が社会関係費の伸びによりまして、増加を続けてまいります。高齢化も進んでいるというようなことも背景にありますし、子育て支援、については県内トップレベルのサービスを展開しているとといった状況があります。この扶助費は高い水準で今後も推移するだろうと思われまます。

市税収入は、定額減税等の影響もあり、税収としては、厳しい状況であろうというふうに見込んでおります。義務的な経費の方は、どちらの団体も同じですが、今公務員の人件費等の見直しがあり、増えていく傾向があります。投資的経費の方は令和6年度途中に比べて7年度の方が、10億ほど増えるという見通しになっています。

個別の事業は、駅周辺整備、旧上野方小学校の複合のコミュニティー施設整備等の予定があり、これらを勘案すると、相当程度投資的経費、ハード整備が、増えていくと見込んでいます。この歳入と歳出の差で3億4千万ほど足りないよというふうな状況になるわけです。昨年もこの時点では、3億ほど財源不足があると話していましたが、昨年度は結果的に2億ほど財政調整基金を活用し、他の事業を見直して当初予算を組みました。令和6年度の当初予算が192億で、過去2番目となりました。令和7年度は状況からいくと、それ相当の規模になる可能性があり、この財源不足をどうやって埋め、どれくらいの予算規模にまとめていくかというふうなことがこれからの予算編成、予算査定での大きな作業になろうかと思っています。

毎年の財源不足につきましても、事業の見直しですとか、行財政改革の取組を引き続きやるほか、国や県の補助金などの財源をしっかりと活用すること、さらには、企業版ふるさと納税などの独自財源の確保というようなことにも取り組んでいきたいと思っています。財政調整基金については、予算編成をするときに、基金を活用して組まざるをえないということも出てくるかもしれませんが、健全化目標としております10億円超のラインについては、しっかりと維持をしていきたいと思っています。

そして、公共施設整備基金の方ですけれども、新庁舎整備に備えて令和8年度末までに、20億円以上確保します。しっかりと財源を確保していくということを、ここに書かせていただいております。

### 3. チョイソコウおづ (AI オンデマンド交通) 実証運行

(企画政策課)

令和6年の12月2日から上中島地区及び本江地区の一部で、チョイソコウおづの実証運行を開始します。この地域は、現在の市民バスの運行エリアが非常に広大な設定になっておりまして、目的地に行くのにかなり時間がかかるという課題があります。そういった点を踏まえ、まずこの地域でどのようなニーズがあるかを把握したいと考えています。さらに地区の一部につきましては、そもそもバスの便数が少なく、市として、交通不便地域というふうに捉えておりますので、どのようなニーズがあるかについて、この実証運行で捉えていきたいというふうに考えております。

このシステムは、全国でも60以上の自治体で展開がされている仕組みになります。エリアスポンサー(事業所)による協賛などいただきながら、自主的にある程度成り立つようにやってこうという仕組みになります。来年度につきましても、エリアを変えて実験を行い、利用者のニーズにマッチする運行エリア、運行の仕組みを作り上げていければなというふうに思っております。

### 4. 「うおづのうまい水」日本橋とやま館で販売開始

(生活環境課)

日本橋とやま館で販売を開始をしていただけることになりましたのでご案内します。1本120円ということで、やはり我々とすればこの魚津の水のよさ、水循環、という地域特性を合わせてアピールをしていきたいというふうに思っています。

それでこのペットボトルの方には、2次元コードでもそういったものがわかるような仕組みをしておりますので、魚津市出身の方はもとより、ぜひ多くの方に、魚津のこの水の魅力について知ってもらおうきっかけの1つにしていこうと思っております。

また関西方面や、当市ゆかりの飲食店など、いろいろな展開が考えられますので、工夫してやっていきたいと思っております。

### 5. 農林水産業と食の体験モニターツアー

(農林水産課)

農林水産業と食の体験モニターツアーのご案内になります。今年度は1次産業や食に関心の高い「食の熱中小学校」の現地実習ツアーとして、試験的に実施することとします。

食の熱中小学校は、生産者と消費者を繋いで食べる楽しさを含むコミュニティづくりを目指していらっしゃる首都圏の社会人塾ということであります。基本的には東京近辺でセミナーを開いたり、現地実習などを展開しておられますが、この現地実施ツアーを魚津で展開をしていただけることになりました。

我々としても、こういったツアーの企画の体験、結果についてご意見をいただいて、観光商品化をしていきたいと思っており、例えばふるさと納税の返礼品などとしていくこともできると思っています。

## 6. 魚津の農林水産業 体験・応援プロジェクト 親子体験会 (農林水産課)

魚、野菜、果物、田んぼ、4つ毎週土曜日に実施いたします。それぞれの説明は省略いたしますけれど、また取材をいただければなというふうに思っております。

### 【質疑応答の内容】

#### ○「県知事選、衆院選」について

##### 《記者からの質問》

投票率など市長の感想を聞きたい。

##### 《回答》(市長)

高校生や大学生の有権者の方々に関心を持って投票していただくという新しい取り組みをしたわけです。投票率としては思ったほどは伸びなかったのですが、まだまだ取り組みが足りないのかなというふうにも思っていますが、ただ若い方の高校、大学の取り組みは、意識を持ってもらうという意味では、一定の意味があったのではないかと捉えています。

#### ○「チョイソコウおづ」について

##### 《記者からの質問》

何人乗りなのか。将来的な運営はどう考えているのか。

##### 《回答》(市長)

7人乗りの車両です。モデル事業のコンセプトとしては、民間事業者が自立的に行っていただくということが根本にはあります。そのための仕組みとして、市民の皆さんがよく利用する事業所さんに、エリアスポンサーという形で応援していただくという内容です。この予算は、基本的には国の方からいただいています。今年来年は、そのモデル事業を使ってやっていくんですけど、それが終わると自立してくる話になるので、そこで例えば、市の財源投入が始まるかもしれません。地域の高齢者の方などの足を守るという意味合いで、市タクシー協会さんにおいては、なかなか日中の運行が少ないといった課題について、みんなで助け合っていくというものだと考えています。